



ネットワーク通信

Vol.127

2026年1月10日発行



新年のご挨拶

代表取締役 金澤 和孝



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。
旧年中は格別のお引き立てを賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、昨年を振り返ってみると、住宅の価格上昇等による取得マインドの低下や法改正に伴う駆け込み、計算業務増加による申請機関の対応悪化等々、私達の住宅関連業界においては様々な問題が噴出し、その影響は今もなお続いております。

唯一の明るい話題といえば、大阪・関西万博の大屋根リングが世界最大級の木造建築と周知されたことにより、今後の木材使用の領域拡大に繋がっていくことを期待するくらいでしょうか。弊社としても、大屋根リングをはじめ、いくつかのパビリオンの加工に携わる機会をいただき、従業員やそのご家族にとっても記憶に残る年となりました。

ところで、2025年は「AI元年」とも言われていたようで、確かにAIを身近に感じる事が多かった一年でありました。スマホ検索のAI要約、セルフレジ、チャットボット(自動応答システムによる問い合わせ対応)等、気が付けばAIを使わされている(?)という状況は、本年は更に加速していくのでしょうか。

また、弊社のようなコンピュータや機械と日々対峙している企業においては、AIを業務にどう活用できるかを検証しながら、少しずつ実務へ取り入れていく姿勢が必要なのだと改めて思う次第であります。

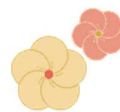
反面、このような文章もAIで・・・と想像すると、なんともつまらない時代だとも感じてしまうのは古い考え方なのでしょうか。

さて、古くから人間と共存共栄し、人間の活動に深く関わってきた「馬」。今年の干支である「午(うま)」には、「交差する」「切り替わる」という意味も持つようです。本年は、昨年以上に厳しい経済環境となることが予測されますが、業界の大きな転換点であるという意識を強く持ち、より緊張感をもって行動に移していかなければなりません。

『天馬空(スカイ)を行く』かの如く、今までの常識に束縛されず、常に自由な発想を持ち、色々な角度から物事に取組んでまいります。
皆様と共に飛躍的な成長を遂げられる一年となるよう社員一同日々精進いたしますので、本年もご指導ご鞭撻の程、宜しく願い申し上げます。



アーキテクトカフェ・建築設計事務所 代表 田井幹夫氏が語る 「人と環境をつなぎ、新しい発想を探り続ける家づくり」



有限会社 アーキテクトカフェ・田井幹夫建築設計事務所

所在地: 神奈川県横浜市中区不老町1-1-1 守谷ビル5F
設立: 2004年

一級建築士事務所として横浜市内を拠点に活動。
さまざまな住宅やプロジェクトが建築メディアに紹介され、
専門誌への掲載実績も多数。

インタビュー: スカイ 川合剛 (左) / アーキテクトカフェ 田井幹夫氏 (右)

現在、山梨県内で建築中の「(仮称)増坪の倉庫」(約80坪)は、昨年9月に弊社にてプレカットを納品いたしました。当初は10tトラックも乗入れを予定していた運送品用の倉庫は、モノづくりが好きなこだわりの強いお施主様の「ただの四角い建物にはしたくない!」という強い希望を、アーキテクトカフェの田井幹夫氏の設計で見事に実現されています。この建物は、屋根を段違いに配すことで自然光が内部を照らすアイデアや大空間を木造で建築するなど、お施主様の想い入れと田井氏のアイデアが詰まったものとなりました。この物件を通して、住まい手の視点や敷地の特性を丁寧に読み取り、素材の特長を活かし、光の取り込み方など周囲の環境と関係性まで含めた住まいづくりを大切にしている建築家・田井幹夫氏に、建築に対する考え方やこれからの日本建築への期待をお伺いしました。

「建築は自分の“想い”が入れられる」

～ただの倉庫じゃつまらない! お施主様のこだわりを形に～

**Q 今回、増坪の倉庫を設計することになった
きっかけを教えてください。**

今回手掛けた倉庫のお施主様は、実は十数年前にご自宅を建築しており古くからのお付き合いのある方です。お施主様は、モノづくりや機械いじりが大好きで、そういう方は建築も好きな方が多いのです。私も同じですが、建築には「自分の想いが入られる」と思っているんですよ。

倉庫といえば通常はプレハブや鉄骨が多いのですが、「大空間を木造建築で」と提案したところ、興味を持っていただき今回の建築が実現しました。

具体的には、ワンウェイで14mのスパンをトラスで組んでいき、1個おきに山型にすることでハイサイドライトを配置することが出来、「広い空間だけど日中は照明なしでも十分に明るい」というシンプルなもので落ち着きました。

Q 木造建築の魅力は何ですか?

独立する前は、内藤廣先生の事務所にいたのですが、先生は木加工も特徴的でそこでいくつも木造建築を経験することが出来ました。その後、独立して住宅を手掛けるようになってからも、自然な流れで「木」を取り入れています。

建築の構造や素材の在り方として、一つを限定的に追及し極めることはとても魅力ですが、私は分散させて力を合わせていることに魅力を感じています。木造のフレキシビリティ(柔らかさ)と、コンクリートの強さが同居している混構造は、人間の身体的感覚にとっても安心感があると思っています。

コンクリートだけでは「冷たい」とか「硬い」という印象になりますが、木の屋根を組み合わせることで、素材のコントラストが生まれ、空間が和らぎ、一気に抜けていく感じがします。

一方、耐力壁をRCに頼ることで、木の断面を小さくしたり壁を減らせたりします。このように、それぞれの素材の特長を「構造」と「身体的な感覚」で役割分担させていくと、中間領域的な思考につながっていきます。そのようにして、何か新しいものが出来ないと常に考えています。

「中間領域を探る」ことが今のテーマ

Q 建築をする上で、大切にしていることやこだわりはありますか？

建築には「モノづくり」と「コトづくり」の二つの観点があります。「コトづくり」とは社会と個人をどう繋ぐかどう切るかで、建築家である以上は「モノづくり」もしているし「コトづくり」にもかかわっています。

大学で人に教えることになったとき、改めて自分の作品を振り返ってみたのですが、固定観念や既成概念に抗っていますね(笑)

例えば、玄関を土間にして玄関扉も無くして、アルミサッシの引き戸にして「どこで靴脱ぐの？(笑)」という空間にしたこともあります。

また、吹抜が多く上下が繋がった空間づくりや、リビングのサッシを折れ戸にして内と外が繋がっている状態にするなど、境界の無い建築を意識的に生み出していました。「こうじゃなきゃいけない部屋割」に抗って、扉のない個室にしたこともあります。

整理すると、「外と内」「個人と集団」「プライベートとパブリック」「働く事と寛ぐ事」など、隔たりみたいなものを混ぜ合わせて「中間領域」的な部分を探っています。

また、中間領域にも二つの観点があり、土間や吹抜けは「モノ」の中間領域、「コト」は社会と個人をどうつなぐかの行為の中間領域です。今回の倉庫で言うと、“庇がグルッと周っていて、しかも扉がかなり大きく開くようにして中も外も関係なくなる”ということを試んでいます。

本質を捉え、自ら考え、人間的な思考を！ ～設計に携わることは、実は泥臭いこと～

Q 今後の日本建築に求めることや期待することはありますか？

今、日本は近年の大きな環境の変化への対応もあり、省エネやZEH等、性能の高い住宅が基準となっています。エネルギーを使わないという方向性が建物の断熱性能をあげる一択で、選択の余地を与えないのは極端ではないかと感じてしまいます。「エネルギー消費量を下げる」という出口だけにして、断熱性能も施主が選べるスタイルにしても良いのではないかと思います。

また、AIが何でもやってくれる時代ですが、人間にしか出来ないクリエイティビティの部分の根源的に捉え直すことが必要です。大学等の教育機関では、「何を大事にする必要があるのか」を根幹となる部分で物事を考える力を学び、「自分の思考を持つこと」を身に付けてもらいたいです。

そして、未来の設計者には、高いところから見下ろすだけのステレオタイプ的な見方ではなく、まずは足元からモノを見て欲しいです。靴が泥まみれになって色んな人と話をすることで良い建築が生まれるのです。

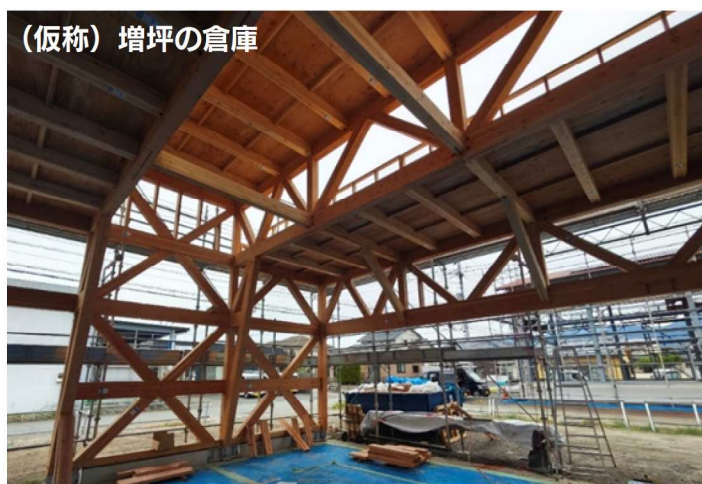
足元を見れば、「上手くいっているように見せかけている現実」がわかってきます。足元から見て「変革していける精神」を持つ人間となり、そういう人々が設計者に限らず、将来の役人や官僚になることを期待します。

Q 最後に、今回のプレカットの印象を教えてください。

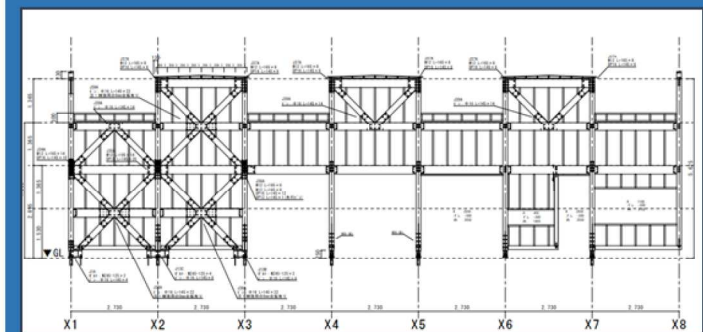
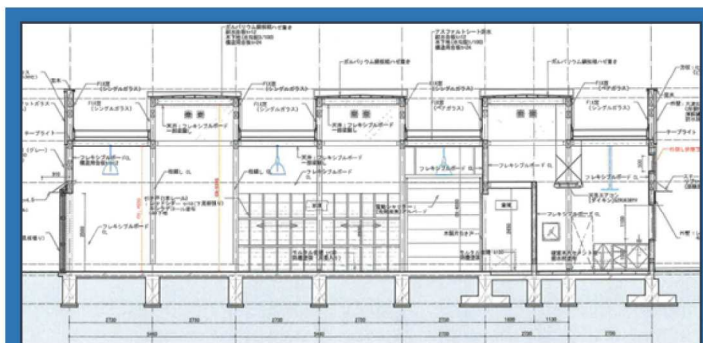
実は独立してからプレカットを知ったのですが、今回の物件もビシッと納まっていて精度にはいつも驚かされます。建方の時期はなかなか現地へ赴くことが出来なかったのも、いつ緊急の相談がくるかと心配していたのですが、1回も呼び出されることはありませんでした。

建築家には、プレカット会社や金物メーカーが持っている情報を知らない人が多いです。オリジナルの設計では、金物も当然オリジナルで作らざるを得ないのが現状です。今後は、構造事務所等が

「プレカットで使われているこの金物であればこういうジョイントができる」といった提案ができるようになれば、コスト的にも優しくなりもっと木造建築が広がっていくと思います。



<パース>



上段：断面図(アーキテクトカフェ作図) 下段：プレカット図(スカイCAD)

詳細な資料をご提供頂いたことにより、プレカット図面をスムーズに作成することができました

田井 幹夫 mikio tai

PROFILE

1968 東京都出身

1992 横浜国立大学工学部建設学科 建築学コース卒業

1992 -1993 ベルラー・ヘ・インスティテュート (オランダ) 在籍

1994 -1999 内藤廣建築設計事務所

1999 アーキテクトカフェ (建築設計事務所) 主宰

2002 -2005 東洋大学工学部建築学科非常勤講師

2003 -2007 東京理科大学工学部 2部建築学科非常勤講師

2004 有限会社 アーキテクトカフェ・田井幹夫建築設計事務所設立

2005- 桑沢デザイン研究所非常勤講師

2005- 横浜国立大学非常勤講師

2012- 台湾東海大学客員准教授

2012- 法政大学デザイン工学部建築学科非常勤講師

2017- 静岡理工科大学准教授



2026年のスタートにあたって

「プレカット工場から、現場へ一歩近づく」



昨年から、人件費高騰・金利上昇や円安基調継続による集成材価格の上昇などの影響も受け、新築着工数は非常に厳しい状況が続いています。

このような厳しい状況下ではありますが、弊社では来期初旬の稼働に向けて特殊加工機の導入を進めています。近年弊社では500坪位までの中規模物件のご相談を頂くことが増え、現在2台ある特殊加工機だけではお客様のご要望にお応えできないことが度々ありました。また、昨年の受注・見積りの傾向から、3・4階建ての木造がこれまで以上に増加していくと予測しております。そこで、数年前より計画しておりました3台目の導入を、受注環境が厳しいこのタイミングに実施することにいたしました。今後はそれぞれの加工機の特性を活かして分散・調整することが可能となり、大幅な納期短縮が期待されます。

さて、今年は『プレカット工場から一歩現場に近づく』をテーマとして掲げ業務に臨んでまいります。現状は、施工店様のご依頼に基づき加工を行っておりますが、木材加工のプロとして弊社からご提案出来るよう営業提案力の底上げを図ります。基礎・設備等の莫大な情報を建物全体で管理されている施工店様の一助になるべく、「任せて安心なプレカット工場」となれるよう努めてまいります。本年もどうぞ宜しくお願いいたします。

営業本部 花田裕弘

「選ばれ続けるプレカット工場を目指して」



住宅業界を取り巻く環境は、大きな転換期を迎えております。昨年は、新設住宅着工戸数の減少や建築基準法改正による確認申請長期化の影響を受け、需要動向を見極めながら生産計画の見直しを重ねた一年となりました。更に労務費や工場で使用する資材の高騰など、事業環境は一層厳しさを増しています。こうした状況の中、本年はまさに企業努力が試される一年になると考えています。

本年の生産本部は、生産体制の見直しや工程改善を進め、生産性向上と付加価値を高めていけるよう取り組みます。安定した品質と納期の遵守はもちろん、お客様に「選ばれ続けるプレカット工場」となるよう、日々の改善を積み重ねてまいります。

その一環として、本年は『工場内をキレイに！作業場の美しさは製品の品質に宿る』という考えのもと、整理・整頓・清掃をより一層徹底し、安全で効率的な作業環境づくりに尽力いたします。弊社では工場見学も随時承っておりますので、ご依頼いただいたプレカットがどのように加工されているのか、どんな加工ができるのか、是非一度ご覧いただければ幸いです。我々は、目に見えない部分への配慮こそが最終的な製品品質につながると信じております。

本年も皆様の信頼に応えられるよう、誠心誠意取り組んでまいります。変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

生産本部 築瀬隆志



昨年は、多くの「プレカット+建て方」のご依頼を賜りありがとうございました。本年も皆さまと共に協業してまいります。

個人的には、ウオッカ(馬)の如く颯爽と人生のターフを駆け、記憶に残るような充実した1年にしたいと思っております。

2026年も宜しくお願いいたします！



株式会社スカイ

【本社】静岡県磐田市上野部2740-5

TEL：0539-63-5500

【関東営業所】神奈川県相模原市南区大野台3-25-17

TEL：042-704-6211

